

第3学年 国語科学習指導案

日時 平成22年10月7日(木) 5校時
児童 男9名 女5名 計14名
指導者 南館 聡子

1 単元名 『大事なことをたしかめよう』

2 教材名 「すがたをかえる大豆」

3 単元について

(1) 指導事項について

本単元の主たる指導事項は、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」である。この力を育てていくためには、「段落ごとに中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読むこと」、「指示語や接続語、繰り返して使われている語句に着目して、文章を読み取ること」などの力を育てていく必要がある。

本単元では、「中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら文章を読むこと」を目標とする。

(2) 児童の実態について

児童は一学期に「ありの行列」で、段落ごとに指示語や接続語、時間の経過を表す言葉、文末表現に着目しながら、仮説—検証型の文章を読み取る学習をしてきた。

本単元に関わる意識調査の実態をみると、「説明文で書かれている内容がよく分かる」と答えた児童は93%であった。「説明文を読んで、大事な言葉や文を見つけることができる」と答えた児童は86%であった。また、昨年度のCRTテストの「順序などを考えながら読むこと」の学級得点率は71.1%、「語句や表現に注意しながら読むこと」の学級得点率は72.9%であった。児童の実態を見ると、段落ごとに中心となる語や文をとらえる力、指示語や接続語、繰り返して使われている語句に着目して文章を読み取る力には、個人差が見られる。また、学び合いにおいては、友達の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点に気付く力を身に付けつつある。

(3) 教材について

この教材は、身の回りにある大豆やその加工品について書かれたもので、内容的には児童にも身近なものであり、興味を持って読み進めることができる作品である。また、大豆の加工食品は、見た目だけでは大豆からできているとは思われないものも多いため、意外性を持つと思われる。さらに、加工食品になるまでに、どのような手が加えられているのかを読んでいく中で、筆者の伝えたい「昔の人々の知恵」に共感することができると思われる。

本教材は、「話題提示」、「説明」、「まとめ」の3つのまとまりで構成されている。「説明」の段落には、「大豆をおいしく食べるための工夫」と「手の加え方」が述べられているが、それらは簡単なものからより複雑なものへと変化していく。そこで、中心となる語や文をとらえ、指示語や接続語、繰り返し使われている語句に着目し、段落相互の関係を考えながら読むことにより、「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」について読み取っていくことができる。

以上のことから、本教材は、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら文章を読み取る学習に適した教材であると考えられる。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、次のように進めていく。

- ① 「つかむ段階」では、大豆について書かれている読み物を紹介し、大豆について関心を持つことができるようにする。また、その他の食品について書かれている読み物も紹介し、単元を通して並行読書を行うことで、「ひろげる段階」で本作りをするときまでに調べたい食べ物を見つけることができるようにする。
- ② 「読み深める段階」では、「食品名と写真」、「大豆をおいしく食べるための工夫」、「手の加え方」の視点に沿って大きなまとまりごとに読み取り、表にまとめることによって段落相互の関係が分かるようにする。
- ③ 「ひろげる段階」では、並行読書で読み進めた読み物の中から調べたい食べ物についての情報を収集し、「すがたをかえる大豆」で学習した文章の書き方の工夫を生かした本作りができるようにする。

4 単元の目標

＜国語への関心・意欲・態度＞

- ・大豆がすがたをかえる様子に興味・関心を持ち、身近な食べ物についても興味を広げ、調べようとする。

＜読む能力＞

- ・中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えて「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」について読み取ることができる。 (読イ)

＜言語についての知識・理解・技能＞

- ・指示語や接続語、繰り返して使われている語句に着目して読み、段落相互の関係を理解することができる。 (言イ (ク))

5 指導計画と評価規準 (17時間)

過程	時間	学習内容	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆について書かれている読み物の紹介を聞く。 ・その他の食品について書かれている読み物の紹介を聞き、並行読書をする目的意識を持つ。 ・全文を読んで、初発の感想を書く。 ・新出漢字、読み替えの漢字を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆やその他の食品について書かれている読み物に興味を持ち、読もうとしている。 ・初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことなどについて感想を書いている。 		
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・文章構成を考える。 ・学習の見通しを持つ。 ・わからない言葉の意味を調べる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「話題提示」、「説明」、「まとめ」の3つのまとまりで構成されていることを理解している。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の提示した話題について読み取る。 (第1・2段落) 		<ul style="list-style-type: none"> ・大豆の特徴と工夫の必要性について読み取っている。 	

読 み 深 め る	1	・「大豆をおいしく食べる工夫」と「食品」について読み取る。 (第3～7段落)		・「大豆をおいしく食べるための工夫」と「食品」を読み取っている。	
	1	・大豆への「手の加え方」について読み取る。 (第3～7段落)		・大豆への「手の加え方」について読み取っている。	
	1 本時	・筆者の説明の順序の工夫に気付く。 (第3～7段落)		・「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」に着目して、筆者の説明の順序の工夫に気付いている。	・筆者の説明は、「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」が、簡単なものから書かれていることを理解している。
	1	・多くの食べ方が考えられた理由について読み取り、昔の人々の知恵について考える。 (第8・9段落) ・文章構成を確認する。		・多くの食べ方が考えられた理由と昔の人々の知恵を読み取っている。	

食べ物はかせになろう

過程	時間	学習内容	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
ひ ろ げ る	1	・「食べ物はかせになろう」を読み、学習の見通しを持つ。	・全文を読み、学習の見通しをもとうとしている。		
	1	・調べたいことを決め、学習の計画を立てる。	・調べたいことを決め、学習計画を立てようとしている。		
	1	・「本で調べる」をもとに、身近な食べ物についての調べ方を知る。		・本で調べる方法について読み取っている。	
	2	・調べるための本を探し、その中から調べたいことを選び出し、分かったことを情報カードに書く。		・図書資料などから調べたい事柄を探し、中心となる語や文を書いている。	
	1	・情報カードを整理する。		・必要な事柄を取捨選択し、説明の順序を考えて整理している。	・段落の持つ役割を理解し、段落構成を考えている。

ひろげる	1	・情報カードのまとめごとによりごとく文章を書く。		・情報カードのまとめごとにより中心となる語や文、接続語に注意しながら順序に気を付けて文章を書いている。	
	1	・自分が書いた文章を推敲する。		・段落相互の関係を分かりやすくしながら文章を書いている。	・文脈に沿って接続語を使っている。
	1	・清書する。			
	1	・文章をまとめ、本を作る。 ・友達と本を読み合い、書いた文章を互いに評価し合う。	・段落の作り方や事柄の並べ方に着目しながら、友達の文章を読み、感想をもととしている。		

6 本時の指導

(1) ねらい

「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」に着目しながら、筆者の説明の順序の工夫に気付くことができる。

(2) 授業仮説

一人学びで考えたことをグループでの学び合いの中で出し合い、互いの考えの共通点や相違点を聞き分けて分かったことを話し合うならば、筆者の説明の順序の工夫に気付くことができるであろう。

(3) 展開

段階	学習内容及び活動	・指導上の留意点 ◎主発問 ○補助発問	評価(評価方法) ◎…具体の評価規準
つかむ3分	1 前時の学習内容を確認し、本時の課題を確認する。 「せつめいのじゅんじよ」のひみつを見つけよう。	・第3～7段落の「食品名と写真」、「大豆をおいしく食べるための工夫」、「手の加え方」について確認する。 ・「ひろげる段階」で文章を書くときの参考にするために、筆者の説明の順序の工夫を考えるという目的意識を持たせる。	

<p>追究する40分</p>	<p>2 課題を解決するための読みの視点を確認する。</p> <p>3 筆者の説明の順序の工夫を考える。 (1) 第3～7段落を音読する。 (2) 一人学びをする。 (3) グループでの学び合いをする。 (4) 全体での学び合いをする。</p> <p>4 筆者の説明の仕方のよさを考える。</p>	<p>・「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」が書かれている順序に着目して考えていくことを確認する。</p> <p>◎ 「説明の順序」のひみつは何でしょう。 ・視点に着目して説明の順序の工夫について気付いたことをノートに書かせる。</p> <p>・互いの考えの共通点や相違点を聞き分けながら、分かったことを話し合わせる。</p> <p>・グループでの学び合いで、分かったことを発表させる。 ・筆者の説明は、「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」が、簡単なものから書かれていることに気付かせる。 ・7段落は、その他の食品が付け足されている段落であることに気付かせる。 ・接続語の役割を確認する。</p> <p>○ 国分さんの説明の仕方は、どんなところがよいでしょう。 ・筆者の説明の仕方のよさに気付かせる。</p>	<p>◎ 読みの視点に着目して、説明の順序の工夫について気付いたことを書くことができたか。 (ノート)</p> <p>・筆者の説明の仕方のよさに気付くことができたか。(発言)</p>
<p>まとめる2分</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。 (1) 自己評価をする。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・「筆者の説明の順序の工夫を読み取ることができたか」、「学び合いで、友達の考えとの共通点や相違点に気付くことができたか」について自己評価させる。</p> <p>・次時は、多くの食べ方が考えられた理由について読み取り、昔の人々の知恵について考える学習をすることを知らせる。</p>	

(4) 具体の評価規準

Aの状況の具体的姿	具体の評価規準	Cの状況への手立て
「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」に着目しながら、筆者の説明の順序の工夫や、そのよさに気付いている。	「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」に着目しながら、筆者の説明の順序の工夫に気付いている。	「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」に着目させ、読み取りの表を見ながら、前後の段落同士を比較させる。

(5) 板書計画

○国分さんのせつ明のしかたのよいところ

- ・かんたんなじゅんじよで書くとき、説明がわかりやすい。
- ・そのほかのせつめいをさいごに書くとき読みやすい。
- ・つなぎ言葉があるとわかりやすい。

これらのほか

さらに

また

次に

いちばん分
かりやすい
のは

つなぎ言葉

もやし
えだ豆

なつとう
みそしょうゆ

とうふ

きなこ

いり豆
に豆

- ・だんだんたいへんになっている。
- ・かんたんなじゅんじよになっている。

- ・大豆をおいしく食べるくふう

大豆をおいしく食べるくふう

- ・だんだんたいへんになっている。
- ・かんたんなじゅんじよになっている。
- ・だんだん手を加える数が増えている。

- ・だんだんたいへんになっている。
- ・かんたんなじゅんじよになっている。
- ・だんだん手を加える数が増えている。

手のくわえ方

すがたをかえる大豆

「せつめいのじゅんじよ」のひみつを見つけよう。

国分 牧衛

＜本時の指導構想＞

第3学年 単元名『大事なことをたしかめよう』
教材名「すがたをかえる大豆」

1 本時の学び合いの構想

説明の順序のひみつについて気付いたことをグループで出し合い、互いの考えの共通点や相違点を聞き分けて、分かったことを話し合う。

2 具体的な手立て

(一人学び)

- ① 「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手のくわえ方」の順序について気付いたことをノートに書き、自分の考えをもつ。

(グループでの学び合い)

- ② 一人学びで気付いたことをグループで学び合う。
- ③ 互いの考えの共通点や相違点を聞き分けて、分かったことを話し合う。
- ④ 筆者の説明の工夫についてわかったことをまとめる。

3 学び合いの展開

T◎：説明の順序のひみつについて気付いたことをグループで出し合ひましょう。友達の考えを聞くときには、自分の考えと同じところや違うところに注意して聞きましょう。そして、「説明の順序のひみつ」について分かったことをグループでまとめましょう。

C1：ぼくは、「大豆をおいしく食べるための工夫」がだんだんたいへんになっていくと思いました。最初は、大豆をその形のままいたり、にたりする工夫だけど、だんだん栄養だけをとりだしたり、小さな生物の力をかりて作っています。

C2：ぼくも、C1さんと似ていて、工夫がたいへんになっていくと思いました。食品ができるまでにも時間がかかることにも気付きました。

C3：私は、二人とは少し違って、「手のくわえ方」が、増えていくと思いました。食品を作るまでにすることがだんだん増えていきます。

C4：私も、C3さんと同じで「手のくわえ方」が、増えていくと思いました。でも、3～6段落まではいいのですが、7段落が増えてはいないので、途中で分からなくなりました。

C3：私はみんなの考えを聞いて、国分さんは、「大豆をおいしく食べるための工夫」と「手のくわえ方」が簡単なものからたいへんな順番に書いていることが分かりました。でも、C4さんが言っていたとおり、7段落は他の段落とは違う気がします。

C1：ぼくも、C4さんの考えを聞いて、7段落は他の段落とは違う気がしてきました。

C2：7段落の始めに「これらのほかに」と書いてあります。だから、3～6段落にちょっと違う「工夫」を付け足して書いているのだと思います。

C4：私は、みんなの考えを聞いて、国分さんは、3～6段落は「大豆をおいしく食べるための工夫」と「手のくわえ方」が簡単な順番で書いて、さっきC2さんが言っていたように、7段落はちょっと違う「工夫」を書いていることが分かりました。

＜ねらい＞ 「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手のくわえ方」に着目しながら、筆者の説明の順序の工夫に気付くことができる。